

医療等社会保障財政の現状と課題

—保険料率の将来推計を改革のトリガーに

法政大学経済学部教授 小黒 圭一 正



- *少子化対策で社会保険料負担が焦点に
- *財政赤字の原因は社会保障負担
- *プライマリバランスの黒字化は可能か
- *債務残高の将来予想を考える
- *支援金制度と社会保障改革をセットに
- *医療と介護の改革をどうするか
- *参考になる年金改革のマクロ経済スライド
- *財務大臣と厚労大臣が合意した経緯
- *内閣府による財政の長期見通しとの関係
- *医療の効率化をいかに進めるか

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、法政大学経済学部教授の小黒一正先生にお越しいただきました。先生は、京都大学理学部を卒業されて、その後、大蔵省に入省されました。2015年から現職を務めておられます。その間、一橋大学で大学院の博士課程を修了され、博士号を取得しておられます。

これまでさまざまな政府の委員会でいろいろな政策提言をしてこられましたけれども、今日は「医療等社会保障財政の現状と課題」というテーマでご講演いただきますが、この問題は日本全体にとっても重要ですし、われわれ個人、一人一人にとりましてもたいへん切実な問題であります。

先ほど少し、お話ししましたら、今回のこの

講演会で初めて詳細にその辺の動向をお話しいただけるということなので、期待して聞いていただければと思います。

それでは先生、よろしく願います。（拍手）

少子化対策で社会保険料負担が焦点に

小黒 皆様、本日は貴重な機会をいただきましてありがとうございます。特に医療を中心とする形で、社会保障財政の現状と課題についてお話をさせていただきます。あと、最終的には今後議論になってくると思いますけれども、医療、介護などの保険料率を政府がおそらく時間をかけて、しばらくした後に出してくるようになると思います。それが年金制度と同じような